28日　日曜

Ⅱサムエル

23:1 これはダビデの最後のことばである。エッサイの子ダビデの告げたことば。いと高き方によって上げられた者、ヤコブの神に油注がれた者の告げたことば。イスラエルの歌の歌い手。
23:2 「【主】の霊は私を通して語り、そのことばは私の舌の上にある。
23:3 イスラエルの神は仰せられた。イスラエルの岩は私に語られた。『義をもって人を治める者、神を恐れて治める者。
23:4 その者は、太陽が昇る朝の光、雲一つない朝の光のようだ。雨の後に、地の若草を照らす光のようだ。』
23:5 まことに私の家は、このように神とともにある。神が永遠の契約を私と立てられたからだ。それは、すべてのことにおいて備えられ、また守られる。神は、私の救いと願いを、すべて育んでくださるではないか。
23:6 よこしまな者たちはみな、根こそぎにされた茨のようだ。それらは手に取ることができない。
23:7 彼らを打つ者はだれも、槍の刃や柄で武装する。彼らはその場で、火で焼き尽くされる。」
23:8 ダビデの勇士たちの名は次のとおりである。補佐官のかしら、タハクモニ人ヨシェブ・バシェベテ。彼は槍を振るって一度に八百人を刺し殺した。
23:9 彼の次は、アホアハ人ドドの子エルアザル。ダビデにつく三勇士の一人であった。彼らがペリシテ人をそしったとき、ペリシテ人は戦うためにそこに集まった。イスラエル人は退いたが、
23:10 彼は立ち上がり、自分の手が疲れて、手が剣にくっつくまでにペリシテ人を討った。【主】はその日、大勝利をもたらされた。兵たちが彼のところに引き返して来たのは、ただ、はぎ取るためであった。
23:11 彼の次はアラル人アゲの子シャンマ。ペリシテ人が隊をなして集まったとき、そこにはレンズ豆が豊かに実った一つの畑があった。兵はペリシテ人の前から逃げたが、
23:12 彼はその畑の真ん中に踏みとどまってこれを守り、ペリシテ人を討った。【主】は大勝利をもたらされた。

Bible Reference 聖書の記述

ダビデの王としての勝利は自分の力ではなく、主の力であったことが、ここでも強調されています。ダビデは自分のなきあとも王国が安泰であることを願いましたが、それは国力によるよりも、神への信仰によるのだと知っていたからです。
ですからこの三勇士も、主が立ててくださったことが分かります。彼らはダビデのためというよりも主のために戦ったのです。教会でも個人でも、人を愛して協力することはすばらしいことですが、人しか見えていないと、そのあり方がずれてゆきます。神様のご計画と価値観のためにという目的を第一にしましょう。そうすれば、愛の神様が人をも愛し協力するように導いてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？